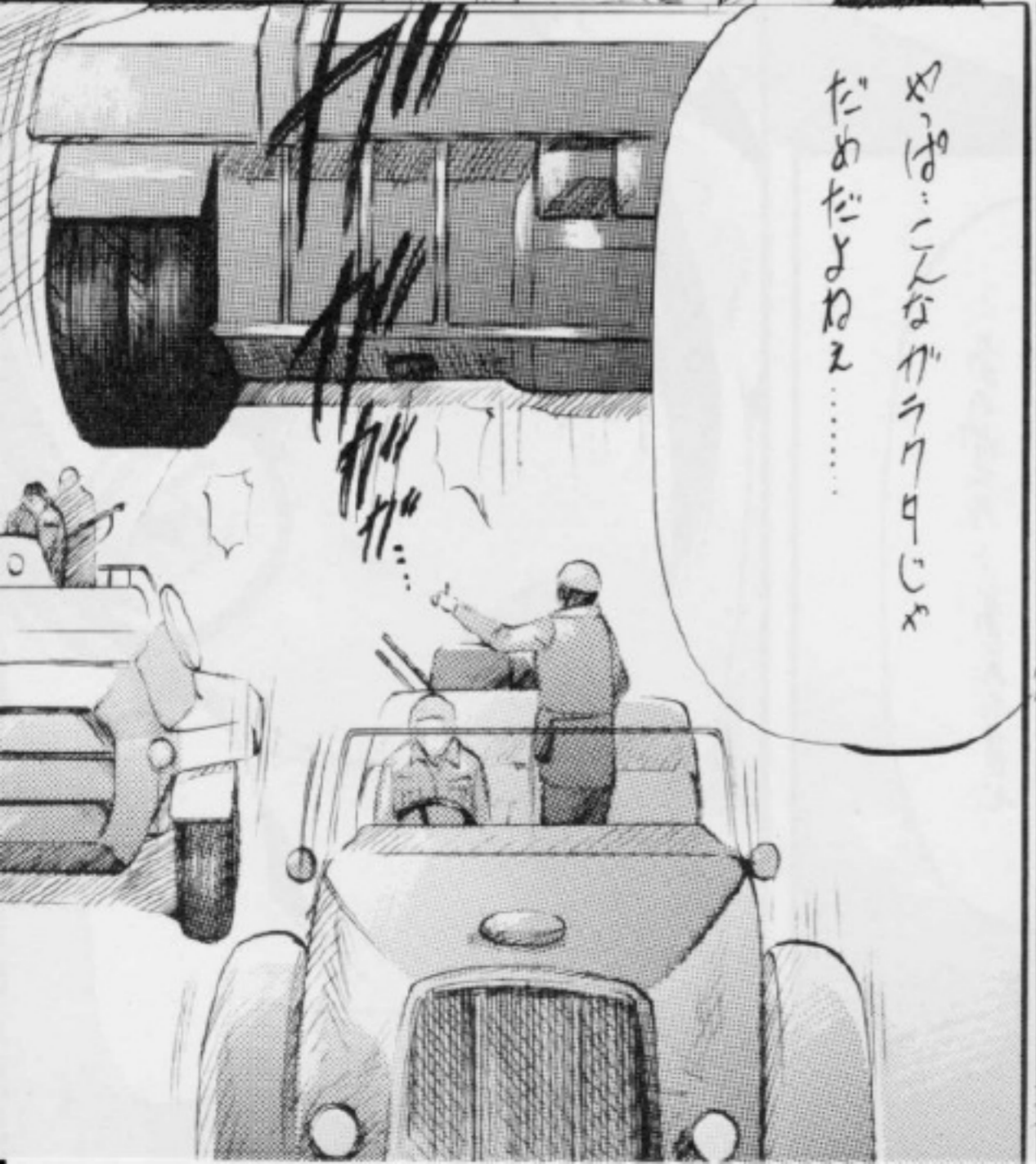




**mari
hokan -
keikaku**

05



やばい…こんなガラケーじゃ
だめだよなえ……



…ふう……

……こまじけあ……



…あの赤いマツ…
目を付けたので……

なんでも日本なんかに
持っへいぢやうかあま……



…あの向こう…あんなまで
行けば…遠く景色が
見られると

思ったので……



「

第 零 話

終わった世界の

向こう側。」



…えんえん
反省の弁のついでに

聞かせんくれんも
…この思いのだけ…



えんえん何かわ
No5

えん
我々の最高機密を
勝手に持ち出したことに
対して…



何か正当な理由があると
おもってるのかね

んん！！



どうやら君は、自分が特別な存在だと勘違いしているようだ

…なわけほど…

…んぶん…マレ…アタシのなんだから



エロイに乗れろと言っしよ…我々にと、えは何れも変わらんのだよ

えここに集められんか、えはやせをち音に味とええ見失い、なつた屍のような直中とお…

んぶん

私の鼻に… あん



皆、戦うことを放棄し、
之に力により、抹殺された
者たちだ。お互いに
体を慰めあうには
格好の相手だろう

はっ、はっ、

痛、

自分の間、ものゝかやと
善らすことにならんだ。
仲良くしておきなさい



んんんんん...

ぬんん

んん、おはん外
んんん...

やっ？

あ、あ、あ

あ、あ、あ

あ、あ、あ、何れ...
んんん...





はあうう

まさかこの
群衆の中に

ふあ

はあはあ...♡

あ

ふあ

おげんさん
また...!!

あ

こんな大勢に
これから何日も

あ

あ

あ

んふうう...

肉体...食くれ
続けるんだ...マア...

あ







あああ...
わっ...

わっ、死ぬ...
死んでしま...

わっ... 背骨が
あんな...

あああ... あ
わっ、わっ... 死ぬ...

わっ、わっ...

わっ

わっ、わっ...

わっ

わっ

わっ

わっ、わっ...

わっ、わっ...

わっ



あはは

あ

アハハ



…何だ…アキラ…
まだ生きてるんだ…

アレに乗れば…
夫の気持ちとイイ思いが
出来るんだから…

…ま…い…何…
これじゃまたアレに
乗れるんだし…

…使徒…第二防衛線
突破…



間もなくジオフロントに
到達します

1711
1711



…お前…この前のマシンより
強…んだらうね…

汎用ヒト型主戦兵器
エグザインゲリオンヒト型機
(改)



…えんじゆ…
…イワよ…!!



今度…は…アワシを
絶頂に導いてくれる人
だらうね…

(注)…この本を手にとり、(やる方、よきや来見の方はいら、(やらないと思いますが……：
もしいら、(やれば、DVD発売までここから先は絶対に読まないで下さい!!

“序”のエンディングの後に流された“破”の予告編…そこには謎のキアラ、“5号機”と銘打たれた謎のエヴァ。とにかく、1分にも満たない予告編の中にTVシリーズでは、まるで観客こそない映像が次から次へと映し出され、それらを頭の中整理する余裕もないまま、劇場の明かりが灯り、観客からはどよめきの声がある。おそろくすべての劇場で、上映された回数だけ同じ光景が繰り返されたであろうことは想像に難くない。

一体“破”はどんな物語なのか…“序”はTVシリーズと同じ構成であったが、これからは全く違う物語になるのか? そう思わせてしまうほど 予告編は衝撃的だった。

そして“破”の公開…。細かなディテールの違いはありものの、想像(いた)うが“全く違う物語”ではなく、話の流れそのものはTVシリーズをそれほど逸脱したものではなかった。(しかし……観ているうちに気付いたのは“向かい違”と言う違和感…明らかに私の知っている“エヴァ”とは違う“向かい”……。最初にそれに気付いたのは、3号機で鳳と登場したアスカの姿を見た時。

シンジ達の前に仁王立ち、お決まりのあのセリフ…初登場時を彷彿とさせるシーン…(しかし……シンジに突、込む姿にしても、向かい見下(いる)より、ボクがお笑い美人に突、込む時のような親しみを感じさせる…。その後のシーンを見ても、高飛車な態度こそそのままだが、

あの、人を拒絶し、エヴァに乗ること(自分の存在価値を見い出せなかったTVシリーズのアスカとは違う)…シンジのベッドに潜り込む姿を見ても、少なからず今回のアスカは人の温もりを求めようように思える。そう…ここにいるのは明らかに私の知っているアスカではない“もう一人のアスカ”だ…(しかし、このアスカの変化は、私にと、しても、他のファンの方達にと、しても受け入れ難いもの(心)け決(て)なく、むしろ“ますますファントマ”という方も多いただろうと思う。

…だが、それ以上の変化を見せたのはレイの方…(!!) シンジの為に自らサポライズパーティーを開こうと奔走したり、手料理を作ろうとして指をケガ(したり…もはや普通の十代の少女と代わらないほどに心の成長を遂げている。これにはファンの誰もが驚いたと思うのだけど、このレイの変化こそが 今回の新劇場版のもの(の)大きな縦軸とな、っている。

ゼルエルに特攻するレイ、ヤシマ作戦の際「あなたは私が守るもの」とシンジに言ったセリフ。あれは“そういう命令だが”という意味以外の向かい(者)でもなかった。(しかし、今度こそ本当に「破」を二度とエヴァに乗せないために…!!)

レイは使徒に向かい、いく…(そして、そんなレイを救いた、いと、再びエヴァに乗る決意をするシンジ…この時(あ)け(た)け(嫌)が、(いた)エヴァの力をシンジは初めて自ら欲する…ついに自ら動き始めたシンジ。“世界なんかどうでもいい、ボクは綾波を助けたい(た)け(た)!”…そこには、生きる意味を失い、うなだれていた(旧)劇場版のシンジはもういない…(いつの間にか)涙腺がゆるくな、っている自分に気がついた…

そして物語はTVシリーズ25、26話、(旧)劇場版の直前まで辿り着き、ここからいよいよ

本当に我々の知らないエウヰが始まる。突如出現したカトル。えいマ-76。
覚醒する初号機。…この「終わりの世界」の中で 今度こそシンジは希望の光をつかむ
ことが出来るのだろうか。

～マリ～

宣伝用ポスターに発表された直後からファンの興味を一身に集めていたであろう
“謎のメガネっ娘” “メガネで巨乳で絶対領域”… 男性ファンに媚びているとそ
とろれおないほどに詰め込まれた記号。反則技ともこれらこのデザインは、劇場版と
言う短いスパンでファンに“マリ”と言うキャラクターを強く印象づけるための措置なのだろう。
案の定と言いましようか… パラシュートでの降下に失敗。そのままシンジに覆い被さり。
シンジの顔に“オッパイムキ”… えいマキラリと覗かせた絶対領域と言う。お約束な
シーンの連続。えいマ、顔を見たらまず先に目に飛び込んで来るあの赤デキメガネ
… “メガネ=地味なキャラ”というイメージも今は昔。一昔前は“ラムネ&40”の
コアのように“メガネを外すと美少女に変身”というコンセプトがほとんどでしてはたが、
今はもう、メガネを外すか市民権を得ようぜ… スタッフのちもその辺はよく分かって
いて、マリにどれだけ激しい戦いを繰り広げようか、ヘルメットが砕けようか決めて
メガネを外れることはありません(笑)。かく言う私もメガネ好き。 マリを見た瞬間、
“メガネキター!” と心の中で叫びました。

えいマ… このマリと言うキャラクター… あの独特なプラグスーツ着、えいマ彼女が
塔乗することになるであろう。あの異形の姿をしたエウヰ(仮設)5号機… 公開前に
発表された情報はこれくらいで、どんな活躍をするのかは想像に頼るしかなく、た
のびずが… 正直、劇場版での彼女の姿は、いい意味で私の想像を裏切っ
ました。大抵の予想を覆し、幕開けと同時に使徒との凄じい戦い。えいマ5号機は
使徒を道連れに爆破四散… あの、話題性持ちきりとなった5号機、えいマ
プラグスーツメーカーからこぞ、立体化したあのタイプ絶対大のプラグスーツは、おすか5分
足らずでお役御免… えいマ、プラグスーツでは新たなプラグスーツで、なんとアスカの
代わりに式号機で登場… (!)と出番は少ないながらも意味でファンに強烈な印象を
与えてくれました。ただ、私個人として印象に残ったのは、ラスト近く、エウヰに乗ることを拒絶
したシンジを再び戦場に導いたのが、ミサトでも加持心もなく、彼女だか… という場面は興味
深いところ。エウヰに乗ることを当然の義務のように受け入れたいるマリ。彼女は今後、シンジ達と
どう関わっていくか… 楽しみ所です。

(注)… マンガに聞けば、もう資料がないに等しく、ほとんど想像で描いています。
イギリス出身の彼女がなぜドイツで建造された式号機が存在や性能を知っているのか? とか
新プラグスーツの作りかとか… 今後、続編やDVD、ブックなどの発売により、今回のマンガとの
相違点が出て来るかと思いますが、どうかご了承下さい。

発行 太陽出版株式会社
発行日 09年8月30日
著 神無月かんた (武装女神)

busou-megami

